

令和 8 年度 第 1 回函南町文化財保護審議会 議事録（要約）

- 1 日 時 令和 8 年 8 月 18 日（火） 午前 9 時 15 分から午前 11 時 45 分まで
- 2 会 場 函南町文化センター 2 階 特別会議室
史跡箱根旧街道 甲石坂（現地視察）
- 3 出席者 委 員：山内会長、増島副会長、佐藤委員、齋藤委員、鈴木委員
樋口委員
事務局：久保田教育長、森田課長、佐藤主査、戸田
- 4 審議会進行
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 報告事項

下記ア～ウについて事務局より報告と説明を行った。

ア 史跡箱根旧街道災害復旧事業の完了について

令和 7 年度末を以て事業が完了し、一般共用を再開したことを報告した。

委員から日本遺産再認定審査について質問があり、活用状況、管理状況が審査基準になることを説明した。またインターネット上では工事を批判する書き込みが見られるとの指摘があったが、雨水が今後も変わらず流入する状況の中、これ以上史跡が毀損しないための工法を選定し、文化庁、災害復旧整備委員会の承認を受け、施工したことを改めて説明した。

イ 瓢箪山古墳の調査について

9 月中旬から筑波大学考古学研究室が調査主体となって実施されることを報告した。委員からは調査期間中に現地を見ることができるとかの質問があり、希望があれば事務局より筑波大学側へ連絡を取る旨を回答した。

ウ 古民具資料の取り扱いについて

令和 8 年 2 月の審議会の協議内容の結果について報告。

古民具資料 2 点（唐箕）を函南小学校東校舎へ移設し、展示することを報告した。

委員からは農作業の過程が分かるような展示とするため、定期的に資料の入れ替えについて検討するよう意見が出された。また伊豆の国市歴史館「いずしる」について話が及び、展示方法等が町の古民具資料を整理する際の参考になるといった意見があった。

また委員からは町の古民具資料におけるテーマについて質問があり、現在丹那トンネル、農業、生活の移り変わりを示す日用品、棺台などの信仰対象の案が出ているが、令和6年度の審議会にて古民具資料の整理に目途が付いたタイミングでテーマ決めをする方向で了承されているので、改めて審議する場を設けさせていただきたい。

(5) 現地視察 史跡箱根旧街道甲石坂

一般開放再開後の状況および現状と課題について委員へ説明した。

ア 施工状況の確認と歩行性

- ・路面が舗装され歩きやすい。
- ・舗装箇所の劣化が見られる。
- ・土留用のスロープは一見するとコンクリートに見えるが、土系舗装材の施工に手間加えるだけで見違えたものとなる。
- ・舗装面や土留用スロープをコンクリートと勘違いする理由も分かる。説明看板があると良いと思う。
- ・現地を見ると箱根町や三島市と置かれている状況の違いを再認識した。雨水の流入は止められない。ボトルユニットや土留スロープは必要。

イ 保存と今後の整備について

- ・応急的な措置に留めた工事であることを理解した。
- ・本格的な整備へ向けた動きに期待したいが、雨水問題は函南町だけの問題ではない。原因者が動かない以上はどうしようもない。
- ・災害復旧は一時的な措置であり、今後の災害発生リスクは何も変わらない。国や県が函南町に代わって排水対策の整備を進めても良いのではないか。
- ・原因者（芦の湖 CC）が動かなければどうしようもない。

ウ その他災害箇所（法面崩落箇所）

- ・草が生い茂り、昨年の視察より目立たなくなっている。
- ・崩落面はローム層のため植物が定着しにくい。

(6) 閉会（森田課長）